

第9回 3市共同資源化推進市民懇談会
議 事 録

日時 平成20年12月2日(火) 午後1時~5時

場所 小平・村山・大和衛生組合3階 大会議室

1.出席者

寺嶋座長、後藤副座長、遠藤委員、小林委員、白水委員、中村委員、林委員、原田委員、
近江委員、鈴木委員、霜出委員、平本委員、山岐委員

[事務局]戸井田事務局長、市川課長、片山課長補佐、乙幡主査

[構成市]小平市ごみ減量対策課西稔氏 東大和市ごみ減量課飯野氏、武蔵村山市ごみ対策課
古川氏、宮崎氏

[コンサルタント]4名

[傍聴者]1名

2.議 事

(1)開会

・寺嶋座長から開会の挨拶

(2)事務局確認事項

[事務局(片山課長補佐)]事務局からご報告する。1点目、資料の確認。2点目、山岐委員からNHK「夕時ネットワーク」のDVDの提供があり、懇談会で視聴しては、との提案があるがいかがか。

[小林委員]見たほうが良い。

[寺嶋座長]内容はどのようなものか。

[事務局(市川課長)]プラスチックの現在の処理状況、大阪府寝屋川地域の健康被害、裁判の状況等の内容となっている。

[寺嶋座長]本懇談会に関係するということで、見たほうが良いと思うがいかがか。

(異議なし)

[事務局(片山課長補佐)]それでは、「組織市担当職員による3市の資源化事業の経緯説明」後に時間を取りたい。3点目は議事録の確認。第7回、8回についてご承認をいただきたい。なお、小林委員から第8回議事録に関し、3市共同資源化等に関する報告書の作成年度、平成19年度を入れた方が良いという指摘があったが、作成は18年度のため、そのように再訂正するというのでよいか。

[小林委員]了承。

[林 委員]議事録の修正に関し、今回からコメント(ワードの修正履歴表示)という形で、示した理由は?

[事務局(片山課長補佐)]どこが修正されたのかわかりにくいとのご指摘を受けたため、このような形にした。

[林 委員]わかりにくいという理由は何か。

[事務局(片山課長補佐)]従来は、修正を済ませたものを提示していたが、どこが修正され

たのかわかりにくいとのご指摘を受けたためである。

[林 委員] 発言した内容で、拙いことを行った場合、議事録としては残しておいて、訂正のコメントを貰ってそれらの経緯を残しておくという趣旨か。そういうことも含めて、直して欲しいというように直すということか。

[事務局 (市川課長)] 会議録なので、発言と別な内容に修正するという事は無い。発言の内容が違ふとか趣旨と異なるという場合に修正指示を貰って、皆様の承認をいただきたいということである。

[事務局 (片山課長補佐)] 議事録としては、コメントを取ったものが正式版となる。

[林 委員] 了承。

[小林委員] 先ほどの報告書のコメント件で、報告書には平成 18 年度とは書いていないので、平成 19 年 3 月発行とした方がよいのでは。

[事務局 (片山課長補佐)] そのようにする。

[中村委員] (第 7 回議事録) 4 ページ目の私の発言だが、もう少し要点だけの議事録にはならないか。例えば、「施設がどこに出来ても、外部委託しても対策が必要である。その施設がどんなものであれば、(以下原案通り)」というように。

[事務局 (片山課長補佐)] そのように訂正する。第 7 回は今の 1 箇所、第 8 回は報告書の発行年月を記載するという、この 2 箇所の修正をするということで、ご承認いただくということでしょうか。

(異議なし)

[事務局 (片山課長補佐)] 最後にもう一点、中村委員が 15 時に所要で退席するのでご承知おき願いたい。

(3) 組織市担当職員による 3 市の資源化事業の経緯説明

(小平市より資料「小平市資源化等の経緯」「資源物収集について」説明)

(東大和市より資料「資源化事業の経過の骨子」説明)

(武蔵村山市より資料「武蔵村山市資源化事業の経過」説明)

(4) 専門部会の進捗状況について

(市川課長より資料「3 市共同資源化推進本部の進捗状況」説明)

[寺嶋座長] 3 市の資源化事業の経緯及び推進本部の進捗状況について、質問・意見等のある方はどうぞ。

[山岐委員] 東大和市中で、平成 19 年に容器包装プラスチック減容機を購入とあり、これは更新だと思うが、元の設備はいつから稼働していたのか。

[東大和市] 平成 9 年 7 月である。

[山岐委員] 今回 (懇談会) のことと関係ないかもしれないが、武蔵村山市で処理しているし尿はどのくらいの量か。

[武蔵村山市] 武蔵村山市が湖南衛生組合に投入した量が、H19 年度は 280 .6kL。H18 は 345 .9、平成 17 年度が 461 .9kL で年々減ってきている。下水に移行しているものと思われる。

[山岐委員] 3 市の分のみか。

- [事務局(市川課長)] 湖南衛生組合は5市。3市の他、小金井市と武蔵野市が含まれる。
- [山岐委員] 配布資料「3市共同資源化推進本部等の進捗状況」で、「共同資源化検討部会」はソフト中心の検討と記載されているが、ハードの検討はしていないのか。
- [事務局(市川課長)] 具体的には2つの専門部会があり、最終的には1つにまとめるが、意見交換をしながら進めている。共同資源化施設のハードの検討は、不燃・粗大部会でやっている。「不燃・粗大ごみ処理検討部会」は、不燃・粗大だけではなく資源の処理施設もやっている。
- [山岐委員] これ(資料)を見ただけではそれが分からない。もう少し分かり易く書きなおしてもらったほうがいいと思う。
- [事務局(市川課長)] 実際には、推進本部が上部にあり、そこで全体を計画しており、その下部組織として専門部会(共同資源化検討部会と不燃・粗大ごみ処理検討部会)が役割分担している。第1回市民懇談会でこれらの検討項目の内訳は資料として提出している。
- [山岐委員] ねじれた検討というか、部会の名称とは違うところで検討しているのはなぜか。
- [事務局(市川課長)] 不燃・粗大ごみ処理検討部会で、処理をどうするかは、資源物をどうするかによって大きく影響されるため、一体として検討対象としている。
- [山岐委員] 共同資源化施設は、「共同資源化検討部会」で検討するのが普通だと思うが、表に出てこないように細工しているように感じる。
- [事務局(市川課長)] そのようなことは全く考えていない。
- [山岐委員] 3市の共同資源化施設のハード面の検討をしているのなら、それを明確に書いてもらったほうが良い。
- [事務局(市川課長)] 第1回懇談会で、専門部会の位置付けの説明や要綱をお配りしているが、ハード面も検討することになっている。その役割をどちらの部会が受け持つかだけの話であって、「それを伏せて」というようなことではない。第1回の資料を見ていただければご理解いただけると思う。
- [霜出委員] 各市の資料がばらばらだが、武蔵村山市に準備していただいたものくらい、わかりやすく作成して欲しいと要望する。
- [中村委員] 小平市で、生ごみ一次処理物の収集・再資源化を行っているが、一次処理物とは家庭用の生ごみ乾燥機のことか。東大和市でコンポスターをやっているが、これまでどれくらいやっているのか、また減量化にどのくらい効いているのか、大まかで結構なので教えてほしい。
- [小平市] 生ごみの処理機に補助金を出して家庭で処理をお願いしているが、全ての生ごみを処理できているわけではない。生ごみ一次処理物は、ほとんどが小学校の給食センターから出る生ごみと、市役所、出張所に持ち込まれた分(一部の登録市民排出分)を業者が収集し、堆肥化原料と混ぜて処理している。市全域での一次処理物というわけではない。
- [中村委員] 政策的な位置付けとしては、実際の減量というより、モデル的、啓発的という意味でやっているのか。
- [小平市] 生ごみの資源化は減量効果も高いので、今後検討していきたいと考えている。
- [寺嶋座長] できたコンポストは、はけているか。

- [小平市] 業者に任せている。他の自治体の分も併せて、2割程度の一次処理物を混ぜて堆肥を作り販売しているようである。市に戻ってくるわけではない。
- [寺嶋座長] 2割混入というのは、コンポストを2割ということか。
- [小平市] 生ごみを乾燥させたものである。
- [寺嶋座長] コンポストは時期(季節)によっては使いみちが無いというようなことも聞くが、せっかく作ったものが、はけてくれなければ意味が無いことになる。
- [後藤副座長] 一次処理とは、生ごみを乾燥させたもの。
- [中村委員] 乾燥したものを堆肥化業者が引き取って、商品化・販売しているということの解釈でよいか。だから小平市に戻ってくるのではなくて、色々な所に販売されるということでよいか。
- [小平市] そのとおり。
- [東大和市] (中村委員の2点目の質問に対して) コンポストの数については、本日は資料を持っていないので不確かだが、数百かと思う。コンポストは維持管理が難しく、使用するのを途中でやめてしまうということもあると聞いているので、全て今も使われているかどうかは不明である。なお、東大和市では現在電気式による乾燥のものに補助金は出していない。
- [林 委員] 東大和市の「割り箸のリサイクル」はどうしているか。一時期、市の食堂や一部の所から製紙会社へ行っていたというのは知っているが、今でもまだ続いているのか。
- [東大和市] 開始当時は学校給食から結構出ていたが、今は割り箸を使わなくなったので、現状としては、あまり出ていない。
- [林 委員] 東大和のプラスチックのモデル地区が今まで7年経過し、世帯数は増加しているようだが、今後、モデルからの発展的な展開はないのか。武蔵村山市では9月に生ごみの市民懇談会からの提言を受けていると思うが、生ごみのモデル収集は行なわないのか。最後に、以前、小平市に資料請求をした際に、軟質プラスチックは分別するつもりがないとの回答があったが、もし懇談会で、3市統一を図るべきであるという意見にまとまった場合、小平市としてはどのように対応するのか。
- [東大和市] 容器包装プラスチックに関して、来年4月から全市で収集を開始する。平成11年にモデル地区を始めたときは700世帯だったのが、3,600世帯に増えている状況である。
- [寺嶋座長] 全世帯ではどの位の数か。
- [東大和市] 35,000世帯程度。
- [武蔵村山市] 生ごみの資源化については、市の懇談会から答申をいただき、内部で検討した結果、予算要求の段階まで進んでいる。今後、答申に沿った形で具体的な実施方法を定めていきたいと考えている。
- [小平市] 軟質系プラスチックは、リサイクルセンターの能力不足で、焼却している状況である。新たな資源化施設ができれば、すぐにでも資源化にまわしたいと考えている。
- [林 委員] 3市共同の施設ができなければ、できないということか。
- [小平市] 今のリサイクルセンターでは困難である。
- [鈴木委員] 東大和市はH12年度から容器包装プラスチックのモデル収集を開始し、H19年度

にプラスチックの減容機を購入とあるが、購入までどのようなことをされていたのか。また、減容機は全市展開を見越して購入したのか。

[東大和市] 前の機器は平成 9 年度に購入し、ペットボトルの圧縮に使用していたものを、平成 12 年度から、容器包装プラスチックに使用したと聞いている。去年（平成 19 年度）の購入時点では全市拡大することを見越した機器を購入したわけではない。今後は、業者に委託する予定であり、今使用している圧縮機を容器包装プラスチックに使用する予定はない。

[寺嶋座長] 見学会で見せてもらったものは、縦型で、それ程大きなものではなかったと記憶している。

[鈴木委員] 価格はどの程度か。外国製のようにだったが。

[東大和市] スウェーデン製で、使い勝手と価格の点から、前のものと同じメーカーになった。値段は手元に資料が無いのでわからない。

[遠藤委員] 東大和市の平成 8 年度の生ごみ処理機（容器）はどういうものか。肥料になるのか。

[東大和市] 平成 3 年の生ごみ堆肥化容器（無償貸付）というのは、コンポスター等の、バケツ型で、菌を使って堆肥化するものである。平成 8 年度は容器購入に対する補助金を開始した。この頃は電気を使うものにも補助金を出していたが、今は電気を使用するものには出していない。

[遠藤委員] それはどういう種類のものか。

[東大和市] 電気を使わない、平成 3 年度からのものを継続している。

[鈴木委員] 武蔵村山市で、収集体制が変わる時に、周知等のために何かやってきたことはあるか。他の市ではどうか。

[武蔵村山市] 平成 13 年の変更時には、資料 5 ページにあるように、住民に説明会を開催した（43 箇所、参加者 5,162 名）。それ以前の変更時にも、資料が無いので不明確だが、何らかの周知はしていると思う。

[小平市] 市報、ホームページ、説明会等いろいろな形で啓発を進めている。分別区分等変更の度合、状況、時代によって方法は変わることが考えられる。

[寺嶋座長] 東大和市は来年度から全市展開するのに、何かやるつもりか。

[東大和市] 説明会を今年の 10 月より開始して、予定では 130 回程度開催する。現在半分くらい終わっている。また、平成 15 年のガイドブックと同じようなものを現在作成しており、各戸配布したいと考えている。さらに、市報、ホームページ等での啓発や、確定ではないが、収集車の幕や集積所での看板による情報提供等も考えている。

[小林委員] 各市でごみ減量化のために、今まで取り組んできて効果的だった施策、今力を入れている取り組み、これから行おうとしている具体的な施策を教えて欲しい。また、容リプラで企業と手を組んでやっていく等あれば聞かせて欲しい。

[寺嶋座長] 関連する話だが、こちらの組合は焼却能力が十分ではないこともあるので、分別収集のあり方等を考えて取り組まないと、近い将来お金がかかって大変なことになるかと思うが、各市の方針、現在取組もうとしていることがあれば聞きたい。

[中村委員] 減量化計画は中長期計画があって、その中で決まっていくと思うが、そのあたり

が議論の中で見えてこない。何をどれくらい減らしたいかという行政の意図が見えないので、何をどうしたらいいかを言いつらいところがある。減量化計画は、3市で意見を形成しながらやっているのか、その辺にも触れながら説明してもらえると、今後の議論にも役立つのでそのようにお願いしたい。

[山岐委員] 以前も意見を申し上げたが、減量化や分別・収集についてはこれまで行政側で検討されてきた筈であるから、まずは行政がどう考えているのかを示すべきではないか。初めから、そういうことを示さずに市民に意見を求めるのは乱暴である。私は前にも、この場ではなく、組合に意見を出した。東大和市はごみゼロプランを今年の3月に改定しているが、その中で議論されているはずなので、その内容を知らせて欲しいと要望を出したが、まだ回答がきていない。そういうことを市民に知らしめて、「行政としてはこう考えているが、皆さんどうですか」というのはいいが、初めから市民懇談会に投げ出している印象を持っているので、そういう説明をきちんとしてもらう必要がある。

[寺嶋座長] ごみ処理基本計画で、目標値を定めていると思うが。

[後藤副座長] 3市それぞれが計画し、中間見直しをしたのがあるはずである。それを頭の中に入れてこれ(懇談会)がスタートしたはずである。それらの予備知識があった上で、今に至っている。

[林 委員] これ(3市共同資源化等に関する調査報告書)には場所の想定地、組合の敷地内に作るというのも選択肢であり、その他に東大和の暫定地ということいくつかのシナリオが出ていたはずである。これに基づいて、東大和の暫定地に対する反対の意見を出されているが、ここにはシナリオとしていくつかの案が提案されており、減量の目標値が提示されている。想定地だけを取り上げるのではなく、その基本となるごみ量のシミュレーションもしているので、それを含めて報告書を見るべきである。

[寺嶋座長] その調査の報告書に基づいて、行政としてどこまできちっと計画していくのか。

[後藤副座長] 3市の基本計画があって、それ(報告書)が出来ているはずだ。

[中村委員] これ(報告書)を見ると、想定地によって敷地面積が違うので、場所ごとに施設の規模が書いてあるが、どの程度減らしたいかについての行政の意思があるのかわからないか。我々が何を意見として出したらいいのか戸惑いがあった。「ここでやるんだったら、こういうふうにするんですよ」ということでやるのならそれはそれで一つの答えだと思うが、それが無いままに議論が進んでいるので、意見をいうのに不安があったということをお伝えしたかった。

[近江委員] 今日で9回目だが、ごみの減量に関しては殆どの委員がそれなりの意見を既に言っていると思う。(一般に)懇談会は、市民の代表が行政に対して注文をつけるというようにとれるが、懇談会としては、やはり行政から宿題を出して委員が答えを出すのが、本来は良いと思う。ごみの減量に関してはいろいろな意見が出されており、更なる意見はないと思う。それをまとめることになるが、行政からどうしたいというのが無いと、まとまりが付きにくい。また、私は何回も言っているが、この報告書は東大和に作ることありきで想定地を書いてあるから市民は混乱した。だから懇談会も最初から東大和反対という委員とリサイクルをどうするか

という委員に2分されてしまった。3市では分別は十分にやっており、これ以上分別区分を増やすのは不可能だ。今後の課題としては、事業系一般廃棄物のあり方である。事業系については3市共同でやらなければならない。市民はある程度分別はしている。事業系がひどいという集積所がいっぱいある。これからの課題は事業系一般廃棄物と考える。

[寺嶋座長] 今、いろいろな意見が出たが、要するに、各市のごみ処理基本計画、減量化の計画のポイントをお話しいただきたい。

[小平市] 平成15年にごみ処理基本計画を作成し、平成24年を目標年度とし、社会状況等を考慮し5年毎の見直しを、廃棄物減量等推進審議会や市民からの意見を踏まえ、昨年度策定した。平成24年度の目標値として、排出原単位、リサイクル率などの数値目標を設定した。また改定前の基本計画の施策の達成状況を確認し、更なる施策を策定した。大きくは、市民・事業者・行政が三位一体となってごみ減量化へ協働することが第一目標である。また、自治体としては、啓発をしていくことが重要であるという審議会の答申を貰って、新たな施策を作った状況である。

[寺嶋座長] 具体的な数値目標や実績は。

平成24年度は平成15年度に較べて何%の減量となっていたのか。数値はもっていないか。

[小平市] 収集ごみ量原単位が550g、持ち込みごみ量が年間4,900t、収集時の資源化率30%、最終処分量5,200t/年等だったと記憶している。

[近江委員] 一般に14万の人口がいると4千くらいの事業所があるはずである。そのうち3千くらいの事業所は料金を徴収しなければならないはずだが、そこまでは徴収していないと思う。きちんと料金を徴収しなければ事業系一般廃棄物は減らない。集積所で、これは家庭のごみかなと思うようなごみが出ている。収集業者はわかっているが、市から取れといわれているので、取らないわけにはいかない。料金徴収の基準となる検査も日時を通知しているので、正確な量を把握できていない。利害関係者が多いので難しい面もあるが、そういう所からきちんとやらなければならない。3市でやる気になれば、すぐにできるはずである。家庭の皆さんはちゃんとやっている。今後は事業系を課題としなければならない。

[寺嶋座長] 実態に即して、不公平が無いようにきちんと指導しなければならないということ。

[近江委員] 「うちは事業系で出しているけど、あそこは出していない」というようなことを良く聞く。家庭系に出すと何でも持っていってもらえるが、事業系で料金を徴収すれば、リサイクルに回る分も増えるのではないか。

[遠藤委員] 数十年後までのごみ量のシミュレーション結果を提示してもらえれば、私でも意見を出せて、もっと良い議論ができたと思う。

[白水委員] 近江委員の意見に賛成する。雨の日に、新聞を出そうか迷った時があって、相談したことがあるが、「大丈夫。雨で重たくなって、回収業者は却って喜ぶ」というような話を聞いて唖然としたことがある。排出者責任が割と市民に偏っている気がするので、事業者にも強い指導をしていただきたい。

[原田委員] まず、議会等で忙しい12月のこの時期に各市のご担当の方にご出席いただいたことを感謝する。「共同資源化検討部会」はどのようなメンバーか。また検討部会

には懇談会の意見がどのように反映されるのか。3市の方には我々のこの熱意を感じ取ってもらい、検討部会で活発に議論し、3市の目標である統一を達成していただきたい。

[事務局(市川課長)]共同資源化検討部会のメンバーは、3市のごみ担当の課長、係長級のメンバーで各2名、組合2名、合計8名で検討している。不燃・粗大ごみ処理検討部会は、組織市各1名、組合4名の合計7名。懇談会でこれまで議論していただいているが、まとまった段階で、検討部会に参考意見として出す。

[後藤副座長]小平市の計画は聞いたが、東大和市も他の2市同様の計画があると思う。東大和市の計画も聞きたい。

[東大和市]計画そのものを持ってきていないので、細かい数値は言えないが、基本的には他市と同様、平成15~24年度の計画に関し、平成20年3月に見直し版を作成した。平成24年度を目標年度として、排出原単位や排出量、リサイクル率等の数値目標を掲げている。容器包装プラスチックの全市拡大が計画にうたわれており、それに基づき来年4月から実施することになっている。

[山岐委員]東大和市の計画書(ごみゼロプラン)では、前計画の達成状況を分析・評価し、だからこうするんだということがわからない。それらを、市民にもわかるように説明することが必要だと思う。先ほどの発言の趣旨は、そういうことである。

[寺嶋座長]3市のご担当の方、大変ありがとうございました。

(5) DVD 視聴

[寺嶋座長]プラスチックをリサイクルするか焼却するか等は、受け入れ施設の能力や費用の面から検討しなければならない。リサイクルに係る費用のうち、2割が売り上げ、8割が(容器包装プラスチック協会からの)委託費用とのことであったが、この費用には収集分が入っていない。拡大生産者責任という観点から、分別収集に係る費用も上乘せすべきだという議論もある。何か感想はあるか。

[事務局(市川課長)]今の映像の補足であるが、東京23区の(プラスチックは今後焼却するという)取組みに触れていたが、東京都は、すべて焼却するというのではなく、排出抑制を第一に掲げている。また、容器包装プラスチックをリサイクルにまわしている区もあり、それぞれの区の考え方に違いがある。また、大阪の施設で被害が出ているとのことであったが、健康被害は3年ほど前から始まっているのに対して、北河内組合の4市共同の施設が出来たのは今年の2月からである。プラスチック処理に伴う健康影響があるのであれば、この施設の影響ではなく、以前からあるプラスチックの成型物を作る施設の影響の方が大きいと考えられる。大阪地裁では操業差止めの訴えが却下されたが、住民側は上告しており、裁判はまだ続いている。

(6) 議題

これまでの議論の総合的な結果整理(重点課題と解決方針)

(コンサル(志賀)から資料の説明)

[小林委員]p3(19)の「事業系ごみ」の所に、先ほどの近江委員の意見は重要であり、こ

こに入れるべきだと考える。

[寺嶋座長] 事業系ごみの収集のあり方についても大きな問題なので、緑の枠の中に入れるべきではないかという意見が出た。これは報告書をまとめる時の大きな構成要素となる。入れることでよいか。

(異議なし)

[寺嶋座長] それでは、事業系ごみの収集のあり方について、近江委員の意見が基になるが、これを、大きな柱の中のひとつに入れることとする。

小林委員の意見は p3 (19) の「事業系ごみ」の所に記載ということだったが、座長の問いかけは、「(16) の緑の枠内ということで、問いかけをし、了承されたという状況です。(事務局注記)

[後藤副座長] 3点ほど確認したい。1点目は、p2「ライフスタイル・減量施策などについて」の囲みの中の5番目で、「誰もが参加できる形の市場的なリユースの場を増やすべき」はフリーマーケットを想定しているのか。その場合、事業者責任についての議論は無かったが、例えば中古の暖房器具を使用して死亡事故が起きては困るので、「事業者責任を考慮しつつ」等を考えないと、事故等が起きた時大変なので条件付賛成である。次にp3の真ん中の収集方法の囲みの(16)の最後に「分別基準というごみの入口の議論が重要であり、資源物のリサイクルの成果が高くなるような収集方法を検討すべきである」とあるが、リサイクルの成果の基準について、何が высокая低いかの議論が必要と考える。3点目はp4左側、囲みの中の「(20)前提事項」の「行政関与の低減」で「集団回収は、発生抑制に大きな役割を担っており、奨励金だけでなく、保管場所の協力等の柔軟な支援体制強化が必要である」とあるが、集団回収は発生抑制には入らないと考えている。「発生抑制に大きな役割を担っている」は言い過ぎではないか。用語の使い方を検討して欲しい。

[寺嶋座長] 一つずつ検討していく。1点目は、p2のフリーマーケットで買った商品で事故が起きたら問題になるのではないかとことだが、公共が行なっているリサイクルでも該当する。法律的な問題はどうか。(公共の)リサイクルセンター等でも自転車などを再利用するときの責任の所在の問題があり、積極的に取り組まなくなった市町村もあると聞いている。このあたりをどう打開していくか。

[後藤副座長] 自転車は自転車整備技術というのがあって、自転車業界とタイアップしてシルバー人材センターなどがやっている。家具の場合は、小平市でもやっているが、責任は持てない状況で利用者に譲ったり販売したりしている。ましてやフリーマーケットのように誰でも参加できる場では問題があるのではないか。その点で、記載の「市場的な」というのは言いすぎではないか。

[寺嶋座長] お互いの納得が前提なので、そのような表現とすることでよいか。フリーマーケット自体は悪いことではないので、コンサルに表現を検討してもらおう。次はp3リサイクルの成果、判定基準だが、これは何かの事例からこのような意見が出たのか。

[後藤副座長] 例えば、ペットボトルはきれいに回収すれば高く売れる。値段が高い、安いのみで判断するということがいいのか。値段以外に他の基準はないのか。

[寺嶋座長] ペットボトルを洗ったりラベルをはがしたりというという手間隙、家庭の皆さん

にどこまで負担を掛けれるかという問題もある。

- [林 委員] コンテナ収集や袋収集とかを併用するより、コンテナのみのほうがきれいであり評価される資源物となる、というような観点で出された意見だったかもしれない。後は採算性が。
- [コンサル (志賀)] ワークショップでの意見では「リサイクルしやすい収集方法を基本とする」素材別にコンテナやネットに入れる」等の収集方法に関する意見が出ていた。コストという評価軸の意見は、同じ (16) の 1 行目の所に出ているので、コスト以外の観点での意見である。「成果が高くなる」という表現を見直させていただきたい。
- [寺嶋座長] 林委員のいうように、手間隙は別として、同一の素材で集めた方がいいという意見がベースとなったものか。では、これも文章を修正するというで。
- [コンサル (志賀)] リサイクルしやすい、というような表現で。
- [寺嶋座長] 次は、集団回収。集団回収が、発生抑制になるかという議論。
- [林 委員] 行政のごみ収集量が減るという意味で発生抑制という言葉が使われたのだと思う。しかし、報奨金が出るため、ごみとしてはカウントされている。行政収集量には入らないというだけであって、発生はしている。集団回収量を増やすために、飲み物を沢山買って (集団回収に) 持たせるというような弊害も、昔あった。
- [寺嶋座長] 「減量化」という言葉で置き換えたらどうか。
- [コンサル (志賀)] 当日の意見では、「集団回収もリデュースの大きな役割があるので」ということだった。
- [コンサル (新井)] ここは、「行政関与の低減」の中でのなしなので、そのような考え方で表現を考えさせていただきたい。初めの話 (リサイクルの質) に関して、「質の高いリサイクルとは何か」という観点も重要なので、そのような言葉を入れておくのも良いのではないかと思う。この懇談会で、質の高いリサイクルとは何かということまで決めるのが理想だが、観点としてそういう問題があるという言葉を残しておくのも良いのかなと思う。
- [寺嶋座長] リサイクル (分別排出) し易いという次の議論かと思う。住民にどこまで分別してもらうかとも関連してくる。
- [後藤副座長] 考える 1 つの材料としてはいいかもしれないが、リサイクル量を増やせばよいというようにとらえられかねない。
- [寺嶋座長] 「資源物のリサイクルがしやすくなるような収集方法」というような、先ほどの発言のような形に修正してもらおうということ。
- [白水委員] 重点課題 1 について、「排出者である市民が参画し」とあるが、この表現では排出者が市民に限定されるような印象を受ける。事業者責任についても考慮する必要があると考える。
- [事務局 (市川課長)] 市民という時に、事業者を含めて市民ということもある。市民の後に括弧書きで事業者含むとするのはいかがか。
- [林 委員] このような会議に、事業者が参加するのはこれまでにない。収集や処理業者は審議会などでも枠があって、参加しているが、「いなげや」さんなどが参加することは、リサイクル連絡会議を除いてあまり無い。括弧書きで事業者とすると、今後

会議に参加していただくようになると考えられるし、今後、そのような方も参加していただくことが必要なのではないかと思う。

[事務局(市川課長)] 今まで特に議論がなかったが、やはり事業系一般廃棄物の減量施策は必要であるので、加えた方が良いと思う。

[小林委員] 横浜で行政と市民と企業が三位一体で、30%の減量に成功したとのニュースを聞いた。今後、3者が協力していくことが必要と考える。

[寺嶋座長] 市民に事業者を含めることもあるが、今の書き方は市民だけにとらえる人もいる。括弧書きで事業者を入れるということではどうか。

[近江委員] 廃棄物処理法にも事業系一般廃棄物があるので、事業者を入れたほうが良い。

[コンサル(新井)] 「排出者である市民が参画し」をカットして、「市民・事業者・行政が共同で進める必要がある」とするのはいかがか。

[コンサル(志賀)] 「今後のさらなる・・・」とのつながりもあるので、文案を持ち帰って考えさせていただきたい。

[山岐委員] まず、前回の懇談会で配られた資料3の報告書目次構成案と今回の資料の項目が合っていない。今後目次構成に合わせて編集を行うと思うが、なるべく早くその資料を出していただきたい。2点目は4ページの重点課題5「課題の受け皿となる施設」という表現が、抽象的でわかりづらい。「資源化施設」「粗大ごみ処理施設」とははっきり書き、全施設に共通する事項と、それぞれの施設での事項を分けて整理した方が良い。資源化施設に関して、はっきりと表現したくないという意向があるかもしれないが、はっきりさせたほうが良い。また、検討部会の検討状況の説明書もこの資料の中に、きちんと検討していることを入れたほうが良い。地域に持ち帰って説明しても、みんな、本当にやっていないのかと疑問に感じると思う。それをいちいち補足説明しなければならないので、加筆して再配付して欲しい。次に目次構成案で、資料編に市民からの意見書を入れるとあるが、資料編だけでなく、本編に意見の要約を入れて欲しい。例えばアンケートなどでも集計の他に、結果の要約を本編に入れることがある。同じように整理したものを本編に入れていただきたい。

[寺嶋座長] 今回の資料と報告書目次構成の整合を図るのが一点目。次に重点課題5で、資源化施設や粗大ごみ処理施設といったはっきりとした名称で記載すること。もう一つは、市民の意見の要約を本編に入れるということだが、いかがか。

[小林委員] 市民意見を本編に入れるのは賛成である。本文を読まなくても、ひと目でわかるものをつけていただきたい。

[霜出委員] 私は本編に入れるべきでないと思う。入れるとしたら、別冊とするべきである。本編にいれると委員の意見と混同されてしまう。

[寺嶋座長] 前回までの議論では、意見は別冊に入れるということではまとまったと思う。山岐委員はそれの要約を、本文に入れてはどうかということだった。いろいろな反対意見があったことも、事実として示すべきだと思う。

[霜出委員] 別紙なら構わない。

[山岐委員] 私は、本編に入れて欲しい。

[事務局(市川課長)] 要約となると、それぞれの市民が強調したい部分があると思うが、ど

の部分を書けるかが、非常に難しい。意見を出した人の了解を得ないと出せないが、住所を書いてもらっていないので、了解を得ることは不可能であり、要点をまとめるのは事務局ではできないと考えている。件数等は載せられる。

[後藤副座長] 本編にまとめとして入れるのはいかがなものかと思う。前文等で触れる程度は可能かと思うが、章立てして入れるのは大変かと思う。資料編でいいのかなと思う。

[小林委員] 「えんとつ」で市民意見を募集したので、それに応えるという意味で、本編が良いのではないか。それ程要約することが難しい意見は出ていないのではないか。主な意見を載せればよいのではないか。

[寺嶋座長] 「えんとつ」で市民意見を受けるということで、意見が出てきたという経過がある。市民意見は別紙として扱うのが良いと考える。要約の仕方は、厳密には一人ひとりに確認したいが、大きい分類での列記、例示で何件意見があったというまとめをするのでいかがか。

[遠藤委員] 東大和市だけで出した方がよいのではないか。

[林 委員] 3市で募集して、偶然、東大和からの意見が多かったという結果だったということであり、(東大和市だけに出すのは)おかしいと思う。

[遠藤委員] それは、(懇談会の本編とは)別として出した方がよい。各市に。

[林 委員] 私は、要約として意見をまとめるのは危険であると思う。やるなら、おおまかにまとめる程度がよいと思う。

[山岐委員] アンケートでやるように、意見を一覧表にして、意見書に番号が付いているので、一覧表のこの何番にあるという程度のまとめ方で良いと思う。

[寺嶋座長] 「化学物質が心配」、「搬入車の増加が心配」などといった、主な意見をまとめて本編に載せるということであれば、そこまでおかしな要約とはならないと思う。全部の意見をまとめられるかはわからないし、一人だけの意見は削られるかもしれないが、主な意見をまとめるということの問題ないと思う。反対意見が出ているのは事実であるし、そういった意見も踏まえてまとめたということ、残しておいていいのではないか。

[後藤副座長] ワークショップで出た意見と同じものは問題ないが、出ていない意見を議論もせずにまとめるのはいかがか。その意見に対して、時間が無いので議論していない。議論すれば、そういう意見にはならないという意見まで、そのまま出してしまうのは誤解を招くと思う。

[寺嶋座長] 常識的な意見が多かった印象があるが。

[後藤副座長] 東大和市の行政、議会の対応について意見が出ていたが、納得できない点もあった。そんな意見まで本編に載せるのはいかがなものかと思う。

[山岐委員] それは、市民の意見としてそういうものがあったということ、忠実に載せていいのではないかと思う。

[後藤副座長] それは、資料編でいいと思う。

[近江委員] 本編に入れる前提で、組合に任せるということでどうか。

[寺嶋座長] 今日はまだフレームなので、報告書の段階で検討するというでどうか。

[事務局(片山課長補佐)] 基本的には、(懇談会の報告書は)懇談会で考えてきたことをまと

めて、組合管理者に報告いただくものである。「えんとつ」での意見そのものについては、組合がいただいたものであり、懇談会とは別に、組合が管理者にも報告する。懇談会としては、出された意見に対して懇談会がどのようにそれを検討して、報告をまとめるかということだと思う。

[寺嶋座長] 組合が作ろうとしている3市共同の施設に対して、関係する住民の方とどのように接して、合意形成を図っていくかが非常に重要となる。この懇談会はそういった合意形成の場ではないが、討議している間に出てきた市民の意見を、我々は意識せざるを得ない。そういうものを考慮しながら、懇談会を進めてきた。その付属の資料として事実を入れることはかまわないと思う。

[林 委員] 付属の資料としては良いと思うが、本編にワークショップで出なかった意見まで入れるのはいかがか。前書きで書くのはよい。41の意見の殆どが、暫定の所では問題があるということなので、それはまとめやすいが、そうではないという意見が出てきた時にどう扱うかを決めていない。資料として入れるのは問題ない。

[寺嶋座長] まとめ方の問題になる。

[林 委員] 前書きならいいと思う。各市分けて、意識の違いが、温度差が出たというようなことで。

[事務局(市川)] 皆様からのご意見を参考に、まとめ方について検討したい。また、今回の要約版と目次との関連だが、次回懇談会までのなるべく早い時期に資料をまとめたい。もう1点、専門部会の関係だが、第1回目の資料に「資源化部会」と「不燃粗大部会」の具体的な検討項目をまとめているので、住民への説明等の際にはそれも使っていただければ分かりやすいと思う。

[林 委員] 前回休んでしまったので、前回、分別区分の違いについての資料があったが、それに関してどのような議論になったか知りたい。また、議事録を読むと、3市個別でやるか、共同でやるかについて、方向性を出して欲しいという事務局からの要望があったが、本日の要約では両論併記という形になっており、議論されていないと感じる。経費や、メリット・デメリットを比較・整理し、懇談会として意見をまとめられたら良かったと思う。

[山岐委員] 今日の資料3と4について、あとで意見を申し上げたい。

[林 委員] 想定地に対して賛成か反対かということよりも、個別か共同のどちらがいいかを聞きたいという要望があった。どちらが良いかを懇談会で決められないかもしれないが、メリット・デメリットをきちっと精査する作業が必要だったのではないかなと思う。

[寺嶋座長] 判断するためには、組合なり3市から、経済性の比較など資料を出してもらえないとできない。どこまで出来るかということはあるが、本日出た意見は宿題として、次回、報告書スタイルで修正したものを出して貰って議論したい。残っている議論は、次回に持ち越して行きたい。

[山岐委員] 今日の資料3と4については次回質問させてもらってよいか。

[事務局(市川)] はい。

[寺嶋座長] では、次回は12月18日(木)13時からということで。本日はご苦勞様でした。

(7) その他

(第 10 回懇談会 12 月 18 日 (木) 13 時からで決定)

(8) 閉会

3 . 配布資料

事前配布資料

- ・ 資料 1 第 7 回 3 市共同資源化推進市民懇談会議事録(案)
- ・ 資料 2 第 8 回 3 市共同資源化推進市民懇談会議事録(案)
- ・ 資料 3 3 市資源化施設維持管理の比較表
- ・ 資料 4 山岐委員からのご指摘事項等に関する回答について

当日配布資料

- ・ 資料 3 市の資源化事業の経緯説明資料
 - ・ 小平市：資源化等の経緯
 - ・ 東大和市：資源化事業の経過の骨子
 - ・ 武蔵村山市：資源化事業の経過
- ・ 資料 3 市共同資源化推進本部等の進捗状況
- ・ 資料 北河内 4 市リサイクルプラザ地域環境保全協議会「協議会だより第 26 号」
- ・ 資料 第 8 回 3 市共同資源化推進市民懇談会議事録(案)：事前配布資料にコメントを追加
- ・ 資料 重点課題と解決方針～懇談会意見要約版～